

思いやりと優しさのある、良質で安全な医療を提供いたします。

# HOKUTO TIMES

社会医療法人北斗会 大洲中央病院広報誌「ホクトタイムス」

No.

76

2024/1

## 謹賀新年

本年も大洲中央病院を  
どうぞよろしくお願ひします。

社会医療法人北斗会 大洲中央病院 理事長 院長  
大久保 啓二



新年明けましておめでとうございます。新型コロナウイルス感染症に翻弄されたこの3年間でしたが、このウイルスも感染症法の5類に変更され、厳しい感染管理体制もようやく落ち着きを見せてきました。この間、何かにつけ日本の対応は遅れているとか、医療制度の不備とか叩かれる場面も多いように思われましたが、それでも新型コロナウイルス感染症による日本の死亡者数は世界と比較し著しく少なかったことは十分誇れる成果と思われまます。尽力された全ての医療機関や保健所の方々に深く感謝を申し上げます。

この感染症対策の3年間で経験したこと・学んだことが沢山ありました。ウイルスによる病気は沢山ありますが、細菌感染に対する抗生物質などがあるわけではなく、結局は隔離と自粛しか有効な対策がないことに驚き、あるいは呆れた方も多かったのではないのでしょうか。「3密」を避けようと繰り返すばかりのニュースには、改めて医学の無力さを感じる毎日でもありました。一方で、感染対策の基本は手洗いと掃除・清潔・整理整頓・換気であり、これらの重要性を認識させられたことも確かです。インフルエンザの発生が極端に少なかった3年間でしたが、感染対策をきちんとするとここまでインフルエンザの発生が下がるということに専門家が驚きの目を持ってみていたようです。壮大な社会実験の想定外の成果だったように思います。また、mRNAワクチンという全く新しいワクチンにも出会いました。mRNAワクチンを研究・開発したノーベル賞受賞者の話は、大きな壁と困難に立ち向かって最後には世界を救ったサクセスストーリーとして多くのメディアでも紹介されました。未知の領域に挑む科学者の姿に感動を覚えました。

さて、そのような中で新しい年を迎えることになりましたが、新年からインフルエンザの流行が始まっています。インフルエンザに対する免疫が低下していることが原因だそうですが、人間の免疫力はそれほど軟弱とも思えません。新型コロナウイルスも小さな流行を繰り返しながら共存していく社会です。感染症に負けない力強い社会に成長して欲しいと願っています。



救命のためにチームが円滑に機能するよう、各自が役割を担当してシミュレーション実習を行います

Zoom Up!

OozuchuoHospital



【ICLSコース講習会】

日本では年間約8万人の人が突然心停止になると言われています。突然の心停止が起こった場合、最初の10分間の対応が予後に大きく左右されると言われており、現在では市民向けの一次救命処置の講習も数多く開催されるようになり、救命処置の認識が高まっています。突然の心停止は、病院外はもとより、病院内でも外来や病棟に限らず様々な場所で起こる可能性があり、病院スタッフの誰もが一定レベルの救命処置の技術を身につけておく必要があります。

今号では、10月9日に当院で開催された「医療者のための蘇生トレーニングコース (ICLSコース)」の講習会についてご紹介します。

## ICLSコースとは

ICLSとはImmediate Cardiac Life Supportの略で、「直に行われる心臓生命維持処置」と訳されます。ICLSコースは、日本救急医学会が開催している蘇生トレーニングコースで、心臓血管系の緊急病態のうち、特に突然の心停止に対する最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生を習得することを目標としています。実技実習を中心としたコースで、少人数のグループに分かれて、

蘇生のために必要な技術や蘇生現場でのチーム医療を身に付けます。コースの内容は、午前中に一次救命処置、心電図モニターと除細動、気道管理について理解を深め、訓練用の人形を使って疑似体験を行います。午後からは受講者がワンチームとなって、突然人が倒れた場面を想定して、専用の人形を使ったシミュレーション実習を、役割を交代しながら繰り返し行います。

ICLSコースは全ての医療従事者が対象ですが、救命処置が指導できるスタッフの育成を目的として、教育委員会に所属している看護師を中心に6名が受講しました。受講者は、開始当初は緊張した面持ちでしたが、インストラクターの指導もあり、午後からのシミュレーション実習では、課題をクリアするためにチーム全員で力を合わせて行うことが出来ました。救命処置は「チーム蘇生」とも言われており、一人より二人、二人より三人と、少しでも多くの救助者が集まる事で救命率アップに繋がります。各自が、それぞれリーダーや胸骨圧迫者、換気者、モニター係、記録者、周辺補助などの役割を担当し、チームとして動くことでスムーズな対応ができ、より高度な救命医療を提供することが可能となります。参加者からは「急変患者の発見時からの流れが良く理解で

きた」「いざという時、自信をもって動ける」などの感想がありました。

当院では、2012年から救急看護認定看護師が中心となり、教育委員会と連携してBLS（一次救命処置）研修や急変時の対応に関する院内研修を開催し、救急対応能力の強化を図っています。今後は、看護部だけでなく、事務部やメディカル部門とも連携して、どのような場所であろうとスムーズな救命処置ができるようにして、地域の皆さまに安心して受診して頂けるよう努めてまいります。



胸骨圧迫マッサージ

# チーム Zassou spirits のご紹介

受講修了者とチームZassou spirits

当院の救急看護認定看護師が所属している「チームZassou spirits」をご紹介します。

チームZassou spiritsは、県内の同じ思いを持つ5人のICLSインストラクターが集まったチームです。ICLSコースを開催するためには、ICLSコースディレクターの資格を持つ医師の参加や受講者数に合わせたインストラクター、必要な資器材の準備が必要です。しかし、これらのコースディレクターやインストラクターは、通常は各々の施設で勤務しており、コースディレクターの医師に連絡をとり参加の承諾を得て、複数名のインストラクターを募り、その都度資器材を確保することは簡単ではありませんでした。このような背景から、ICLSコースをもっとスムーズに開催できるようにして、「救命の和」を届けたいという理念を持った5人のICLSインストラクターが集結し、チームZassou spiritsは誕生しました。この理念に賛同し



て下さった医師の加入と、メンバーの施設で資器材が借用できる幸運に恵まれ、チームZassou spiritsは、県内のどこの施設でもICLSコースを開催することが可能となりました。チームを立ち上げた2011年以降7箇所の施設で合計26回ICLSコースを開催し、受講者は150名を超えました。受講者の中から新しいインストラクターも誕生し、チームと共に活動しています。活動を続けて

いく中で新たに1名の医師の加入があり、コースディレクターは現在2名となりました。

チームZassou spiritsの強みは、なんと言ってもチームメンバーのフラットな関係性です。なんでも率直に話し合える5人のコアメンバーが連携して、各々の施設に合わせた講習会を開催しています。このICLSコースを開催又は受講希望がありましたらご相談ください。

からだに効く  
**レシピ**

**Point!**  
ひき肉はよくこねることで  
焼き上げたときに割れず  
きれいに仕上がります

大洲中央病院栄養科

## ミートローフ

### ■材料(5人分)

合いびき肉	400g	さやいんげん	80g
たまねぎ	1/2個	プロセスチーズ	60g
卵	1個	サラダリーフ	適量
パン粉	1/2カップ	[ソース]	
牛乳	50ml	ケチャップ	大さじ3
塩	小さじ1/2	中濃ソース	大さじ3
こしょう	少々	砂糖	小さじ2
サラダ油	大さじ1	赤ワイン	大さじ1
かぼちゃ	1/8個	肉の焼き汁	大さじ2

### ■作り方

- ①かぼちゃは皮をつけたまま一口大に切り、耐熱容器にいれ水少々をふりかけてふんわりとラップをかぶせ600wのレンジで3分加熱する。いんげんは筋をとりさっと茹でる。プロセスチーズは拍子切りにする。
- ②ボウルに合いびき肉、小さ目のみじん切りにしたたまねぎ、溶き卵、牛乳をかけてふやかしたパン粉、塩を入れて粘りが出るまでこねる。
- ③アルミホイルにサラダ油を塗り、②の肉だねを空気を抜きながら四角く広げる。
- ④広げた肉だねの上に、かぼちゃ、いんげん、プロセスチーズを並べ、巻きずしの要領で手前から巻く。空気を抜くようにアルミホイルの左右をねじり、外側をアルミホイルでもう一重覆う。
- ⑤230℃に予熱したオーブンで30分加熱する。粗熱が取れたら切り分ける。このときに肉の焼き汁が出るのでとっておく。
- ⑥ソースの材料を小鍋に入れて加熱する。
- ⑦皿にサラダリーフ、ミートローフを盛り付け、ソースをかけて出来上がり。



## 院内美術館

42



### 『富嶽潮音』

平川敏夫作

## 迫力ある白抜きの墨絵による幽玄な富士山

今回は東館3Fスタッフステーション棟にある富士山の絵です。作者の平川敏夫さんは、京都の稲石着尺図案塾に入門し日本画の基礎を築き、一貫して自然界の生命力を描き続けながら、その作風は大きく変遷しました。この作品は、独自の白抜き技法を取り入れた新たな水墨画の幽艶な世界へと華麗に深化した頃のもので、水墨の境地を切り開いて辿り着いた作品を堪能してください。



平川敏夫(ひらかわとしお) / 1924年 - 2006年 / 日本画家 / 1950年に創造美術展に初入選。同展(のちに新制作展を経て創画会展)に出品を続け3度にわたり新作家賞受賞。愛知県出身。

次号は「カンニール作」  
「立美」をご紹介します。

### 八幡浜・大洲圏域救急医療 担当者会議に参加しました

11月27日に、大洲市防災センターで開催された八幡浜・大洲圏域救急医療担当者会議に参加しました。この会議は、八幡浜・大洲圏域の円滑な救急業務の体制を構築する目的で毎年行われています。新型コロナウイルス感染症の流行などにより救急業務の体制に変化が生じてきていることもあり、会議では医療機関と消防機関との救急業務の現状報告や、それぞれの要望などについて活発な意見交換が行われました。会議では、各医療機関が持ち回りで担当して研修や発表を行います。今回は、当院が「脳梗塞の超急性期治療が迅速に行われるために」をテーマに発表を行いました。脳梗塞の超急性期治療と、当院の取り組みや受け入れシステムを紹介し、診断と治療開始までの時間をより短縮するために、必要な情報収集や準備、スムーズな救急搬送の協力を、消防署と各医療機関にお願

いしました。この会議に参加して直接消防機関や各医療機関と情報交換を行うことで、地域の救急医療の現状を知る良い機会となりました。今後も、より円滑な救急患者の受け入れが行えるよう努力してまいります。



中央材料室主任 亀山 州平

### 日本医療マネジメント学会 愛媛支部学術集會に参加しました

9月30日に開催された日本医療マネジメント学会愛媛支部学術集會において、薬剤科から「持参薬報告、切り替え時の薬剤師による介入の取り組み」について発表を行いました。

入院される患者さんには、持参薬をお持ちの方が多くいらっしゃいます。以前は入院の際に、薬剤師が入院前に服用されていたお薬の情報を収集して医師に報告し、医師が電子カルテに切り替え処方を入力していました。しかし、専門的な薬剤や当院未採用薬剤の切り替えなど業務が複雑化していたため、当院独自の方法で薬剤師による持参薬切り替え処方のサポートを開始しました。学会では、このサポートシステムと医師の満足度調査の結果を発表しましたが、同様の課題を抱えている病院も多く、会場からは沢山の質問がありました。

近年、医療の多様化に伴い、持参薬の管理はとて複雑になっています。薬剤科では、入院中も患者さんに安心して薬剤を服用して頂けるよう、今後も努力してまいります。



薬剤科科長 灘部 晴美

### 内子高校からのインターンシップを 受け入れました

10月4~5日と11月15~16日に、リハビリテーション科において、内子高校生のインターンシップ(就業体験)を受け入れました。

今回の受け入れを行うに当たっては、事前に担当の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が、どのような体験をしてもらえば良いかを話し合い、受け入れ体制を整えました。言語聴覚療法では嚥下食の実食や認知症検査を、理学療法では荷重訓練や片麻痺の歩行体験、杖による歩行、装具装着を、作業療法では非利き手での作業や自動具の作成などをそれぞれ体験してもらいました。また、実際に患者さんのリハビリも見学して頂きました。体験された学生さんからは、「職場の雰囲気味わえてよかった」「楽しかった」「職業のイメージができた」などの感想がありました。当院での体験が、今後の進路を決める一助となれば幸いです。

またこのような機会があれば、より良い就業体験ができるよう協力してまいりたいと思います。



言語聴覚士 上甲 智史

## 外来診療医師一覧表

診療科目	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜
内科	1診	上原 貴秀	休診日	大久保啓二	大久保啓二	上原 貴秀	大久保啓二
	2診	岡本 傳男		岡本 傳男	上原 貴秀	岡本 傳男	岡本 傳男
	3診	井上 明子		井上 明子	井上 明子	大久保啓二	非常勤
	4診	浅川 建史		清家 愛理	清家 愛理	非常勤	浅川 建史
外科	1診	森岡 徹	休診日	森岡 徹	森岡 徹	森岡 徹	森岡 徹
	2診	満谷 臨		満谷 臨	満谷 臨	満谷 臨	満谷 臨
整形外科	1診	山下 優嗣	休診日	山下 優嗣	山下 優嗣	愛大医師	山下 優嗣
	2診						非常勤
泌尿器科		清水 公治		清水 公治	清水 公治	清水 公治	清水 公治
脳神経外科	1診(新患)	相原 寛		西原 潤	相原 寛	重川 誠二 末廣 諭	橋本 尚樹(第1) 重川 誠二(第3) 戸田 茂樹(第2-4)
	2診(再診)	後出 一郎		相原 寛	西原 潤		西原 潤
形成外科						森 秀樹 泉本真美子	

受付時間	午前8時00分~午前11時30分
診療開始時間	午前9時00分~ 担当医師は緊急手術などで変更する場合がありますので、事前にお問い合わせください。(休診になる場合あり)
休診日(1~4月)	救急診療のみ... 2月11日(日)、2月23日(金) 休診日... 火曜、水曜、1月1日(月)、1月8日(月)、4月29日(月)
お見舞い・面会時間	午後2時00分~午後5時00分 (新型コロナウイルス感染症予防のため変更になる可能性がありますので、事前にお問い合わせください。)

### ◎大洲・喜多地区の一週間の救急当番

- 金~日曜日...大洲中央病院 (日は18:00まで)
- 日曜日...市立八幡浜総合病院(18:00~)
- 月曜日...市立大洲病院
- 火曜日...市立大洲病院
- 水曜日...加戸病院(昼)、喜多医師会病院(夜)
- 木曜日...大洲記念病院(昼)、市立八幡浜総合病院(夜)

### 編集後記

新年あけましておめでとうございます。昨年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行後、初めての新年を迎えました。先月、友人からお祝いの紅白餅のおすそ分けがあり、子供の頃の餅拾いを懐かしく思い出しながら、家族で美味しく頂きました。新しい年がスタートし、これから沢山の行事が開催されます。日々の小さな出来事や季節の様々な行事の全てが、皆さまにとって素敵な思い出になることを願っております。今年も、広報誌HOKUTO TIMESをよろしくお願ひします。

発行/社会医療法人 北斗会 大洲中央病院  
編集/広報委員会  
東 研志(事務部長)/  
京河 雅史(放射線科科長)/竹岡 照枝(看護師長)  
道休 由佳里(看護師長)/  
木村 優志(リハビリテーション科)/  
大西 修平(リハビリテーション科)/  
藤岡 真里子(栄養科)/  
黒田 都(医事課主任)/九鬼 宏美(総務課)



社会医療法人 北斗会  
**大洲中央病院**

